

留 学 報 告 書

令和 8年 2月 13日

学 部 法文学部 学科・課程 言語文化学科

1. 留学先大学・学部 国名 韓国

大学名 韓国外国語大学

現地到着日 (2025年 8月 25日) 授業開始日 (2025年 9月 1日)

現地出発日 (2025年 12月 22日) 授業終了日 (2025年 12月 17日)

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

TOPIKの受験。島根大学の留学選考試験の受験。ビザの取得。航空券の購入。eSIMの購入。クレジットカードの発行。入寮日までの間のホテル予約。語学堂のクラス分けテストの受験 (オンライン)。入寮のための健康診断の受診。その他日用品等の購入は、渡韓1ヶ月前頃から随時行った。

3. 自宅から留学先大学までの交通手段 (乗物の種類, 乗り換え地, 所要時間)

自宅から関西国際空港まで電車で約2時間。関西国際空港から仁川国際空港まで飛行機で約1時間半。仁川国際空港からソウル駅まで空港鉄道で約1時間。ソウル駅から韓国外国語大学まで地下鉄で約1時間。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

入学、入寮に関わる全ての手続きや韓国口座開設は韓国外国語大学が提供する「HireVisa」の手順に従った。入寮日当日、事前に日本で行っていた入寮のための健康診断 (胸部X線スキャン) が認められず、大学近くの病院で再度受診したのち寮に提出。語学堂の授業料や寮の家賃は銀行窓口で直接振り込むか、韓国口座から送金をした。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

8月28日に交換留学生向けのオリエンテーション、9月9日に寮生向けのオリエンテーションがあった。交換留学生向けのオリエンテーションでは履修登録の手順や警察への通報の仕方を学び、寮生向けのオリエンテーションでは寮内の規則やペナルティ制度、施設の場所や使い方の説明があった。プレースメントテ

トについては、7月24日にオンラインで筆記と面接の試験が実施された（語学堂CKLC入学者のみ）。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

語学堂（CKLC）の授業は午前9時から午後1時までで、9月2日から11月18日までであった。教科書をもとに進められ、適宜プリントが配布される。課題は週に3回ほど出され、単語を調べるものや作文などがある。試験については、教科書をもとに作られた問題、独自に作られたリスニング問題、作文などがあり、選択式のものや筆記式のものがある。

学部の授業では、「日本語古典文法の理解」を受講した。毎週水曜日の15時から16時50分までであり、授業は韓国語が主である。教科書をもとに進められ、竹取物語や枕草子などから引用した文章の品詞分解と韓国語訳を学ぶ。中間、期末テストは教科書をもとに作られ、語彙説明、品詞分解、現代語訳、穴埋めなどがあり、全て筆記式である。範囲がかなり広いが一問ずつ理解するのはかなり難しいため、ひたすら暗記した方が点を取りやすいと感じた。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

韓国語を上達させたい人には語学堂を強く進めます。授業は韓国語のみで進められ、クラスメイトは外国人しかいないため強制的に韓国語を使わないといけない環境に居られるからです。

学部の授業は日本語古典文法の理解しか受講していませんが、教授の方も優しく、受講生も日本が好きな人や日本語がかなり上手な人がほとんどなので、友達を作ったり一緒に勉強したりしやすいのでお勧めします。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

知らない人と共同生活できる人は寮を、できない人にはアパートをお勧めします。また、価格を抑えたい人には寮を、気にしない人にはアパートをお勧めします。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

寮は4ヶ月で約10万円ですが、2人部屋なので一人暮らしはできません。私のルームメイトはイラン人で、韓国語は一切喋れず全て英語でコミュニケーションをとっていました。また、私は午前授業、ルームメイトは午後授業だったので、朝は音を立てないように起き、ドライヤーも歯磨きもできないまま部屋を出て学校

のトイレで歯を磨いていました。また、夜中に急に電話を始めたり私が寝ている横で音を出したり画面をかなり明るく光らせたりしながら動画を見たり、音を立てながらお菓子やチキンを食べたりしていたので、かなりストレスでした。注意をしても治らないのでかなり苦労しました。部屋には冷蔵庫、トイレ、シャワーがあります。施設内には共用の電子レンジ2個とウォーターサーバーが6つあり、その他調理家電を持ち込むことはできません。共用の洗濯機、乾燥機はありますが数が少なく予約等もできないため、早い者勝ちになります。キッチンやコンロもないため自炊ができないので、カップ麺や弁当、宅配や外食が主な食事になります。また、地下にはジムもあります。大学内に寮があるため教室までのアクセスはかなりいいですが、テスト期間以外は門限があります（月-金：0時、土日祝：1時）。また、マナーの悪い寮生もかなりいます。規則が厳しく、ペナルティポイント制で、ポイントによっては強制退寮などがあります。価格も安く教室までのアクセスも良いので個人的にはお勧めしたいですが、文化の違うルームメイトとの共同生活、外食が基本、共用施設の取り合い、夜中に鳴り響く音楽やアラーム、寮内の治安、全て自分たちで解決しろと言ってくる寮の管理員、厳しいペナルティなど、妥協点はかなりあります。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）

HireVisaが用意した口座開設ルートに従って口座（ハナ銀行）を開設したが、家賃の支払いにしか使わなかった。現金は持たず、支払いやお金の送金などの管理は全てWiseというデビットカードで行った。Wiseは日本の銀行と結びつけることで日本からも簡単に送金でき、日本にいる親から定期的を送金を行ってもらっていた。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

留学前から韓国外大に友達がいたため全て彼に聞いていた。島根大学のような留学生チューター制度がないのが不便だった。困ったらおそらく国際課かISOという学生団体に行けば良いと思うが、特に案内はなかった。

12. 現地案内（買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子）

日用品、食材は大学前のemart（イーマート）やダイソーに行けば全て揃う。また、寮内にコンビニが入っているのも特に困ることはない。レストランや美容院もかなりあるため困らないが、1人での飲食文化が

あまりないので2人以上で行くか、1人でも入りやすい店を探すしかない。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

ルームメイトに期待してあまり注意しなかったり、軽く注意したりするだけだとかなりのストレスになるため、かなり強く注意して自己主張をするべき。日本人の友達がおらず、韓国人の友達も忙しかったので、ご飯の時は同じチェーン店に行くことになり、留学前半は食事をあまり楽しむことができなかった。ご飯に行くときはなるべく友達を誘っていろんな店に行くべき。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

HiraVisaが国民健康保険をとってくれていたためこちらからは特に難しい手続きをする必要はなかった。病気時は、韓国は薬局が発達しているため、何かあれば薬局に行けばほとんど解決できる。

15. お世話になった方々

両親、島根大学国際課の皆さん、語学堂CKLCの先生、学院長、日本語文化学科の教授と友人、クラスメイト、ルームメイト、ナポリ食堂（大学近くの韓定食店）の社長

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

KTX（新幹線のようなもの）で、大田、大邱、密陽、釜山を1週間かけて旅行した。移動費、宿泊費、食費など全て合わせて5万円ほどでおさめた。北朝鮮を眺めるツアーは、日本のサイトから参加した（7000円）。

17. 気候と服装について

基本は松江とあまり変わらないが、松江よりは雨が少ない。冬はマイナスが基本で、在学中は-11度になった日があった。服装も特に変わらないが、冬は防寒具とダウンがあれば過ごしやすい。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

風邪薬、クレジットカード

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

何も読んでいない。

20. ホームステイの依頼方法

ホームステイに関する情報はなかった。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) <u>12060</u> 円, (復) <u>13820</u> 円
2) 準備費用	<u>5万</u> 円
3) 大学へ納入する費用	<u>0</u> 円
授業料 (年間合計)	<u>0(語学堂: 8万)</u> 円
保険等その他の費用	<u>5万</u> 円
4) 住居費 (光熱費等含む)	<u>12万</u> 円
5) 衣服代, その他雑費	<u>30万</u> 円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等	<u>5万</u> 円
7) 留学先国内旅行費用	<u>5万</u> 円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額	<u>80万</u> 円
現地通貨 <u>7,524,074</u> ウォン	日本円換算(レート) <u>1000ウォン=105円</u>

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

航空券の規定であるキャリーケースに15キロ以内、リュックに10キロ以内に収まるようにし、EMS (国際スピード郵便) に13キロの荷物をまとめた (料金: 約8千円)。少しでも不要に感じたものや劣化したものは全て量のゴミ箱に廃棄した。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

外国語を喋るのに自信がなかったり恥ずかしさがあったりしても喋らざるを得ない環境で生活をするので、自然と喋れるようになった。また、飲食店などで注文する時に発音がうまくいなくても、聞き直してくれたりメニュー板を指さして確認してくれたりする人が多い。ただ、今ではキオスク (タッチパネル式券売機) やタッチパネル注文が主流になっているため、便利ではあるが店員さんと会話をする機会がないのが

残念だと感じた。しかしその分、「美味しかった」や「また来ます」など言葉をかけることで会話が生まれ、サービスをしてくれたり韓国語を教えたりしてくれるため、とにかく喋ることが大事だと感じた。

語学堂の授業中も、急にペアワークで対話文を作ったり作文をしたりするので、わからないことを放置したままだとクラスメイトに迷惑をかけることになるので、わからないことはすぐに先生やクラスメイトに質問することが大切だと感じた。また、日本語と韓国語は文法も単語も似ているものがかなり多いため、なんとなくで理解しているものも多いが、他の外国語とは全く似ていないため、いざ外国人に説明するとなると説明しづらい時がある。この時、この「なんとなく」を放置したままにすると正しい韓国語を使えなくなるということに気づき、韓国語学習の方法を改めて考える機会になった。

私が生活した限りでは、親日の韓国人はかなり多いと感じた。飲食店や市場に行くと日本人だということとサービスをしてくれたり、よく来てくれたねと笑顔で挨拶してくれたりする人が多い印象だった。ただ、このコミュニケーションもまずはこちらから話さないと始まらないことなので、とにかく声に出して喋ってみることが、何よりも大切だと実感した。